

事務事業No.	17-	8
事業名	図書館経費	
会計	款	項目
一般	10	5 4
政策	6 人生を豊かにするために	
課名	社会教育課	
施策	6-1 生涯学習の推進	
係名	生涯学習係	

1 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	町民（図書館利用者）	目的（対象がどのような状態になっているか）	図書館を中心として町民が様々な学習のできる場を提供する。
事業内容	必要な資料（図書、雑誌、AV資料等）の収集、整理、保存を行うことを基軸として、閲覧サービス、貸出・予約サービス、リクエストサービス、他館との資料相互貸借を行うほか、レファレンスサービス（調べ物のお手伝い）、複写サービス等を行う。不用図書等については年1回「リサイクル会」を開催し有効活用を図っている。 また、子ども読書活動を推進するため毎月2回（第2・第4土曜日）ボランティア団体による「読み聞かせ会」を開催している。			

2 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	指標名		令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位	目標方向	令和7年度（目標）
	1	図書館入館者数	75,034			人	↑	96,000
2	図書貸出冊数	184,790			冊	→	182,000	
3								
4								
5								
			令和2年度（決算）		令和3年度（決算）	令和4年度（予算）		
全体事業費（千円）A+B			29,342		30,288	29,914		
財源内訳	直接事業費A		10,196		11,142	11,428		
	うち一般財源		10,140			11,372		
人件費（千円）B			19,146		19,146	18,486		
内訳	一般職員（人・千円）		1.81	11946	1.81	11,946	1.71	11,286
	臨時職員（人・千円）		4.00	7200	4.00	7,200	4.00	7,200

3 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善<※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性は高まると考えられる	有効性	目標達成度	B 達成できなかった
		町関与の必要性	B 町が担うとともに、町民協働を進めるべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適正である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	Ⅲ 要改善（少しでも事業内容に改善の余地があり取り組むべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

①R3年度の改善計画	16歳から21歳までの年齢層を重点に置き、読書習慣や自ら学ぼうとする意欲向上を図るとともに、幅広い年齢層が利用し易い環境整備を行う。	③取組の課題	若者（16～21歳）の読書習慣と学習意欲の向上を図るための取り組みを行う必要がある。
②R3年度に実施した取り組み	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じたうえ、通常に近い状況での開館に努めた。また、リサイクル会や人形劇は、事前に整理券を配布し、人数制限を設けて開催しました。	④今後の改善計画	若者（16～21歳）に重点を置き、社会情勢の変化、利用者のニーズを把握して、図書館サービスの充実を図る。